

ある試験問題

まずは、14歳から17歳未満の男子を対象としたある試験問題をご覧下さい。

《地理科》

左の事項について述べよ

〈一〉版籍奉還

〈二〉四道将軍

〈三〉九州探題

〈四〉大日本史

《理科》

左の事項について述べよ

〈一〉摩擦とはなにか

〈二〉摩擦利用の事例三つ

〈一〉地球上に四季の生ずる理由を簡単に説明せよ

これは戦時中の陸軍少年

兵通信学校の入学試験の一部です。

徴兵年齢以前の少年が戦争に動員された

通信技術を

柔軟な少年時代に訓練

川相模大野から東京の東村山に移転してきました。当時の学校建物の一部が現存しています(写真下)。

第一次世界大戦で登場した飛行機や戦車など新兵器のあいつぐ登場は、それを操ることが出来る技術下士官の養成が日本軍では急務になってきました。そのため、早期に技術習得をさせる必要があるとして徴兵年齢達成前の十代から教育するための「少年兵」制度が誕生しました。

モールス通信の送受新技術は分速80字が要求され、二十歳で徴兵された兵士に教育してもその条件に達するのはわずか2割にすぎなかったと言われます。

通信技術の発達に対応できる若年層の下士官養成機関として開校されたのが「陸軍少年通信兵学校」(のちの東京陸軍少年通信兵学校)で、同校は一九四二(昭和17)年十月に神奈

頭も手腕も柔軟な少年時代から教育することが必要だとして、一九三三(昭和8)年、陸軍通信学校内に生徒隊が設けられ少年通信兵制度を誕生させました。

国民学校から即陸軍へ

一九四三(昭和十八)年

しかし、戦争の現実

五月、陸軍は「国民学校からすぐ陸軍少年兵」と大々的に宣伝し。受験年齢も引き下げ14歳から17歳未満の少年を募集しました。一九四二(昭和17)年の学科試験には定員七〇〇名に二万四〇〇〇名が応募しました。陸軍少年兵は、官費で技術を取得でき、下士官になることができたのです。少年たちは、当時の教育や社会的風潮のなかで「早くから国に尽くしたい」という気持ちもあつたでしょうが、二十歳で徴兵され二等兵でしごかれるより、下士官になれる少年兵を選択した人も少なくないようです。

卒業を繰り返す

少年を戦地に動員

今年八月二日、少年通信兵学校があつた東村山の「ふるさと歴史館」主催の企画展「陸軍通信兵学校」と講演会が開催されました。

講演会には全国各地の少年通信兵学校卒業生も参加しました。講演前、ある高

齢の男性が一枚の軍服姿の写真を手に線上卒業で前線に

酷でした。兵役年齢に達していない卒業生も前線に派遣され、外地で命を落とす人も少なくありませんでした。また一九四五(昭和20)年には卒業まで月日を残している生徒を「線上卒業」させ、内地や外地の前線に動員したのです。

動員され戦死した実兄の消息を尋ねていました。その印象的な姿に若い命を奪っていた戦争の悲惨さをあらためて感じさせられました。

(本文は「東村山ふるさと歴史館」主催の「陸軍通信兵学校」講演会のお話と資料を参照させていただきました)

平和を求めて

38

私の町の戦争跡

東村山市 陸軍少年兵通信学校跡 少なくとも少年の命が奪われていった



いまでも残る少年通信兵学校建物 (東村山市)